

鳥羽市地域おこし協力隊の渡邊瞬です。鳥羽市の農業支援、農産物の高付加価値化・販売拡大サポーターとして令和4年5月より活動しています。普段の活動は主に「農家のサポート」や「農産物の販路拡大」などを中心に活動しております。

1年目はJA伊勢や鳥羽マルシェなどを活動拠点として生産現場での経験を積み、営農を学ぶとともに、地元農家との人脈づくりを中心に活動をしてきました。ありがたいことに地元農家のみならず、とても親切で、たくさんのかたから声をかけていただき、農業に関する知識や地域の農産物などさまざまなことを日々教えていただいています。まだ半年程度の活動ではありませんが、これまでJA伊勢の農地で加茂小学校の子どもたちが育てているサツマイモの農地管理や収穫のお手伝い、地域の農業団体の朝市やイベントへの参加、鳥羽市の

事業への参加など、幅広く携わらせていただきました。また、鳥羽市役所やJA伊勢、鳥羽マルシェの協力のもと、鳥羽市の環境に合う新しい農作物育成に挑戦し、地元農家に新規農産物について興味をもってもらったことや、地元農産物を活かした加工品の開発、地元農産物の消費向上などの企画も行ってきました。

現在は地元営農者と一緒に兼六いもを活用したイベントなども企画しており、イベントを通じて鳥羽市は農産物もうまい、すごいと少しでも多くのかたに知っていただいで、今後の農産物の販路拡大につながるようにしていきたいです。今後の活動については、農産物の販路拡大としてSNSなどを活用した積極的な情報発信や、他地域の情報を地元



渡邊瞬 隊員

「差別の現実から深く学ぶ」事実と実践に学ぶ



Vol.217 教育委員会生涯学習課 ☎25 1268

「差別の現実から深く学ぶ」事実と実践に学ぶ。昨年10月15、16日の2日間「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する「教育」を確立しよう。」(「教育」とは、差別撤廃・人権文化創造に向けた「研修」啓発「教育」総体を意図します)を大会テーマとして、第56回三重県人権・同和教育研究大会南勢志摩7市町大会が開催されました。この研究大会は、県内各地の教育関係者、行政担当者、さらには人権問題に取り組む関係団体などのさまざまな立場にある参加者が、人権にかかわる事実と実践を持ち寄り互いに学び合うことを目的としています。

大会第一日目の地元報告は、「はじめのつづける・そして、つなげる未来へ」一人ひとりの思いを大切に「をテーマに、志摩市の磯部太鼓で幕を開けました。力強い迫力ある演奏は、「差別に負けず、誇れるものを」という地域のかたがたの思いを伝えるものでした。伊勢市・度会町・南伊勢町・大紀町・玉城町の地域とのつながりを大切にした人権教育・啓発の取り組みは、参加者の今後の活動に大きな示唆を与えてくれました。最後に、鳥羽市・志摩市の高校生による発表と各世代代表によるパネルディスカッションが行われました。高校生が部落問題について学びながら、人権について考え、自分の言葉で伝え合い、分かり合おうとする姿は、参加者からを振り返る契機となりました。